

スマートリモコンなどのクリーンテックで自然と共生

Nature 創業者 塩出晴海氏

Nature(東京都渋谷区)は、2014年に設立された。同社ではスマートリモコン「Nature Remo」などのエネルギーマネジメントデバイスを販売している。Nature Remoは、スマートフォンの専用アプリから様々な家電を一括操作・管理できるスマートリモコンで、同社ではこれらのデバイスと組合せ、電気代が高くなる時間にあわせ家電が自動で節電の制御を行う小売電気メニューも展開している。同社では、スマートリモコンなどによるクリーンテックを活用し、「自然との共生をテクノロジーでドライブする」ことをミッションに掲げ事業展開している。今後は太陽光発電PPAサービスや電気自動車(EV)パワーステーションとデバイスの連携など様々な取り組みを計画しており、これらも含めた今後の事業戦略などについて、創業者の塩出晴海氏に伺った。

—Natureの発足以前も含めたご自身の経歴などをお聞かせください

塩出 大学では北海道大学で情報工学を学び、その後スウェーデン王立工科大学を経て、三井物産に入社しました。ユビキタスコンピューターについて興味があり、同社ではその関連部門に配属され、またその後は電力系の部門に配属され海外の石炭火力発電の事業開発を担当しました。自分で会社を立ち上げたいとの思いはかねてから抱き、その時に事業として開花し自分の手で世の中に影響を与えることができ、また自身の感性が共鳴できるキーワードとして「自然」があり、自身に何ができるか考えた中で「クリーンテック」の分野であるとの結論に辿り着きました。三井物産でも電力がこの分野に近いと考え電力系の部門に配属させてもらいました。同社勤務後にハーバード・ビジネス・スクールでMBAを取得し、いよいよ自らベンチャー企業を立ち上げる際は、電力の発電側よりも需要側を制御する方が事業に着手しやすく、また自分の学んできたコンピューターサイエンスの領域も生かせると思い、とくに家庭のエアコンを制御するとのアイデアに辿り着き、そのためのスマートリモコンNature Remoの開発に至ったのです。

—Nature Remoのこれまでの販売実績は。また貴社のスマートリモコンの一番の特徴はどの点ですか

塩出 Nature Remoはこれまで2017

年の発売から販売台数が累計30万台を突破し、また2024年までには販売台数を100万台にしたいと考えています。Nature Remoの一番の特徴は、シンプルなデザインにあります。シンプルな筐体ながら赤外線を発信し、温度や照度、湿度も計ることができ、さらに人が前を通ったことを感知する人感センサも搭載しています。製造をお願いするメーカーは根気強く探索しました。またスマートリモコンが普及するにはスマートスピーカーも大事な要素と考え、Nature Remoもスマートスピーカーと連携し音声で操作できます。さらにカーテンやスマートロックの操作も行えます。

—今後想定する新サービスなどをお聞かせください

塩出 年内を目処に「Nature Remo E」とEVパワーステーションとの連携も開始したいと考えています。Nature Remo Eは、安価で簡単に家庭に導入できる次世代HEMSで、連携した家庭の蓄電池を、スマホのアプリからコントロールできるほか、電力の消費状況や太陽光発電システムの発電状況をリアルタイムに確認でき、外出時に家の外からも操作ができ、発電量や売電、買電状況をグラフで確認したり過去の消費電力量の表示、接続機器も制御できます。



塩出晴海氏

また、太陽光PPAサービスを来年に開始したいと考えています。PPAサービスは、既存の事業者と組むことも検討していきます。当社はPPA事業者向けのサービスも開発しており、他社に当社のサービスを使って頂くなどフレキシブルに検討しパートナーを増やしていきたいです。単純に太陽光で発電しモニタリングを行いタイミングをあわせ使うだけでは自家消費しきれませんが、蓄電池や給湯機も組み合わせ自家消費比率を上げ事業性を高めることがPPA事業では重要になります。こうした中で、Remo Eによる単純なモニタリング機器の提供だけでなく、エネルギーマネジメントというソリューションでの提供に注力します。

さらに、今後は電気計量法の規制が2022年4月より合理化されます。これによって、今までは太陽光から発電

した電力のデータについて、検定済のスマートメーターによって取得したものでないとデータを売電に使用できなくなりましたが、新たな規制の合理化で、Remo Eを通じパワーコンディショナにアクセスしてデータを取り出し、そのデータを売電に用いることができるようになり、余計なデバイスを多数付けなくてもRemo Eさえ設置すればデータを取得でき、消費者間同士で電力売買を行うP2Pモデルの実現も期待ができます。

一海外展開は目指していますか

塩出 一部の地域では、すでにNature Remoの販売を行っているのですが、本格化はまだ先のことになると思います。赤外線リモコンによるエアコンが普及しており、電力が自由化されかつ英語が使える国での展開がとくに望ましいと考えています。

一新型コロナウイルス感染拡大で受けた影響や、そのほか懸念している点がありますか

塩出 コロナの発生直後は巣ごもり需要が拡大する中で、Nature Remoもテ

レビで取り上げられるなど、追い風となりました。一方で、最近は半導体の供給が逼迫し、当社もその確保には苦勞をしています。

一人材確保はどう進めますか

塩出 電力小売事業に関するノウハウは、実際に事業を手掛けていく中でノウハウを身につけていき、自身も需給調整の取り組みについて一から学びました。一方で、エネルギー分野に詳しいスタッフも在籍しています。いまの在籍人数は30人程度ですが、今季中には倍に、また来期中に100人程度の規模としていきたいです。当社は新卒採用も行っています。

一法人向けのサービス展開は計画していますか

塩出 現在小売電気の販売対象としているのは家庭のみ。高圧以上の需要家向けの展開は考えていませんが、低圧事務所など向けの展開は想定ができます。例えばコンビニなどで設置されているパッケージエアコンは、赤外線リモコンを後付けでき、Nature Remoで操作ができればビジネスチャンスや可

能性が期待できます。また介護の現場において、手足が動かせず、視覚などで操作するiPadのアクセシビリティでやり取りしている方のご自宅に伺ったことが過去にあり、その方からNature Remoを使い生活が劇的に便利なものへ変わったと評価も頂きました。

一サービス利用者の方々の中で再エネ電源使用へのニーズや意識は高まっていますか

塩出 電源ソースの再エネ化も、もちろん意識しています。ただ、単純に非化石証書をつけた電力を販売するモデルだけでは、ユーザーのメリットは少ないのではないのでしょうか。再エネ電源の電気を使いたいという方々もいるかもしれませんが、Nature Remoのユーザーは、まずはあくまでスマートホームでどんな体験ができるかについて興味を抱く方が多く、また電気代も重視しています。ただこうした中でも、再エネ電源のリソース増やすうえで太陽光PPAモデルは今後大きな意味を持つことになります。

手軽にリモコン登録、外出先からスマホでエアコン操作実現 Nature Remo使ってみた

今回筆者自身もNature Remoを購入し使ってみた。筆者が購入したのは、「Nature Remo mini 2」の温度センサー搭載、設定が簡単になったエントリーモデルで、価格は5,980円(税込)。Nature RemoをWi-Fiにつなげ、自宅外からもスマホの操作で1つのNature Remoを介してエアコンやテレビなどを操作できる。ちょうど9月中旬にも気温が30℃近くまで上昇した日があったが、スマホのアプリによる操作で外出先から予め先に冷房を付けておき、帰宅時に入室した時点から部屋の中が涼しくなっていることなどに利便性を感じた。各家電で使っているリモコンの電源ボタンをNature Remoに向け1度押すと、その家電のメーカー名や型番、リモコンの盤面がアプリ画面に表示され、これを登録し以降は家電をスマホで操作できる。塩出氏は「スマートスピーカーと連携

し、布団に入ったらまま声で照明を消す操作などもできます」との便利さも語る。もっとも極めて怠惰な性格の筆者には、一度その便利さを味わってしまうと、起きあがるのが輪を掛けて億劫になる可能性があり、かえってその利便性が危険なところでもある。



筆者宅にて